成分名(一般名)	検討するする効能・効果	候補成分に対応する医療用医薬品の情報				
		販売名	会社名	効能・効果	用法・用量	備考
プラバスタチンナトリウム	健康診断で高コレステロールを指摘された場合のコレステロール降下	メバロチン錠5、同錠10	第一三共株式会社	○高脂血症 ○家族性高コレステロール血症	通常、成人にはプラバスタチンナトリウムとして、1日10mgを1回または2回に分けて経口投与する。 なお、年齢・症状により適宜増減するが、重症の場合は1日20mgまで増量できる。	
ニフェジピン	健康診断で高血圧を指摘された場合や自分で定期的に血圧を測っていて、血圧が高い場合の降圧	アダラートCR錠10mg、同錠20mg、同錠40mg	バイエル薬品株式会社	○高血圧症、腎実質性高血圧症、腎血管性高血圧症 ○狭心症、異型狭心症	〈高血圧症〉 通常、成人にはニフェジピンとして20～40mgを1日1回経口投与する。ただし、1日10～20mgより投与を開始し、必要に応じ漸次増量する。なお、1日40mgで効果不十分な場合には、1回40mg1日2回まで増量できる。 〈腎実質性高血圧症、腎血管性高血圧症〉 通常、成人にはニフェジピンとして20～40mgを1日1回経口投与する。ただし、1日10～20mgより投与を開始し、必要に応じ漸次増量する。 〈狭心症、異型狭心症〉 通常、成人にはニフェジピンとして40mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減するが、最高用量は1日1回60mgとする。	
アムロジピンベシル酸塩	健康診断で高血圧を指摘された場合や自分で定期的に血圧を測っていて、血圧が高い場合の降圧	アムロジン錠2.5mg、同錠5mg、同錠10mg、同OD錠2.5mg、同OD錠5mg、同OD錠10mg ノルバスク錠2.5mg、同錠5mg、同錠10mg、同OD錠2.5mg、同OD錠5mg、同OD錠10mg	住友ファーマ株式会社 ヴィアトリス製薬株式会社	○高血圧症 ○狭心症	〈錠2.5mg、錠5mg、OD錠2.5mg、OD錠5mg〉 高血圧症 通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。 なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。 通常、6歳以上の小児には、アムロジピンとして2.5mgを1日1回経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 狭心症 通常、成人にはアムロジピンとして5mgを1日1回経口投与する。 なお、症状に応じ適宜増減する。 〈錠10mg、OD錠10mg〉 高血圧症 通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。 なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。 狭心症 通常、成人にはアムロジピンとして5mgを1日1回経口投与する。 なお、症状に応じ適宜増減する。	
オセルタミビルリン酸塩	市販薬のキットでインフルエンザ陽性、周りにインフルエンザの患者がいて自分も熱発したとき(みなし陽性)、インフルエンザの予防	タミフルカプセル75、タミフルドライシロップ3%	中外製薬株式会社	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防	○タミフルカプセル75 〈治療〉 通常、成人及び体重37.5kg以上の小児にはオセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間経口投与する。 〈予防〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7～10日間経口投与する。 体重37.5kg以上の小児 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、10日間経口投与する。	
					○タミフルドライシロップ3% 〈治療〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。 小児 通常、オセルタミビルとして以下の1回用量を1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。 幼小児の場合：2mg/kg(ドライシロップ剤として66.7mg/kg) 新生児、乳児の場合：3mg/kg(ドライシロップ剤として100mg/kg) 〈予防〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7～10日間、用時懸濁して経口投与する。 小児 通常、オセルタミビルとして以下の1回用量を1日1回、10日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。 幼小児の場合：2mg/kg(ドライシロップ剤として66.7mg/kg)	
ラニナビルオクタン酸エステル水和物	市販薬のキットでインフルエンザ陽性、周りにインフルエンザの患者がいて自分も熱発したとき(みなし陽性)、インフルエンザの予防	イナビル吸入粉末剤20mg	第一三共株式会社	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防	治療 成人及び小児(10歳以上)：ラニナビルオクタン酸エステルとして40mgを単回吸入投与する。 小児(10歳未満)：ラニナビルオクタン酸エステルとして20mgを単回吸入投与する。 予防 成人及び小児(10歳以上)：ラニナビルオクタン酸エステルとして40mgを単回吸入投与する。また、20mgを1日1回、2日間吸入投与することもできる。 小児(10歳未満)：ラニナビルオクタン酸エステルとして20mgを単回吸入投与する。	

成分名(一般名)	検討するする効能・効果	販売名	会社名	効能・効果	用法・用量	備考
ブデソニド・ホルモテロールフマル酸塩水和物	風邪のあとなかなか咳が収まらない(咳喘息)	シムピコートタービューヘイラ-30吸入、同60吸入	アストラゼネカ株式会社	気管支喘息<吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合> 慢性閉塞性肺疾患<慢性気管支炎・肺気腫>の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合)	<気管支喘息> 通常、成人には、維持療法として1回1吸入(ブデソニドとして160μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として4.5μg)を1日2回吸入投与する。なお、症状に応じて増減するが、維持療法としての1日の最高量は1回4吸入1日2回(合計8吸入:ブデソニドとして1280μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として36μg)までとする。 維持療法として1回1吸入あるいは2吸入を1日2回投与している患者は、発作発現時に本剤の頓用吸入を追加で行うことができる。本剤を維持療法に加えて頓用吸入する場合は、発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する場合には、さらに追加で1吸入する。必要に応じてこれを繰り返すが、1回の発作発現につき、最大6吸入までとする。 維持療法と頓用吸入を合計した本剤の1日の最高量は、通常3吸入までとするが、一時的に1日合計12吸入(ブデソニドとして1920μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として54μg)まで増量可能である。 <慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解> 通常、成人には、1回2吸入(ブデソニドとして320μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物として9μg)を1日2回吸入投与する。	
トコフェロールニコチン酸エステル	高齢者のしびれ	ユベランカプセル100mg、同ソフトカプセル200mg	エーザイ株式会社	○下記に伴う随伴症状 高血圧症 ○高脂質血症 ○下記に伴う末梢循環障害 閉塞性動脈硬化症	カプセル100mg:トコフェロールニコチン酸エステルとして、通常成人1日300~600mgを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 ソフトカプセル200mg:通常成人には、1日3カプセルを3回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 なお、トコフェロールニコチン酸エステルとしての用法及び用量は、通常成人1日300~600mgを3回に分けて経口投与する。	
ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽	高齢者のしびれ	ノイロトリン錠4単位	日本臓器株式会社	帯状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、変形性関節症	通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	
リマプロスタアルファデクス	高齢者のしびれ	オバルモン錠5μg	小野薬品工業株式会社	閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善 後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛、下肢しびれ)および歩行能力の改善	<閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善> 通常成人に、リマプロストとして1日30μgを3回に分けて経口投与する。 <後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛、下肢しびれ)および歩行能力の改善> 通常成人に、リマプロストとして1日15μgを3回に分けて経口投与する。	
フェブキシスタット	健康診断で尿酸高値を指摘された場合の尿酸値低下	フェブリク錠10mg、同錠20mg、同錠40mg	帝人ファーマ株式会社	痛風、高尿酸血症 がん化学療法に伴う高尿酸血症	<痛風、高尿酸血症> 成人 通常、成人にはフェブキシスタットとして1日10mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回40mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回60mgとする。 小児 通常、小児には体重に応じてフェブキシスタットとして下記の投与量を1日1回経口投与する。 体重40kg未満:通常、1日5mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回20mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回30mgとする。 体重40kg以上:通常、1日10mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回40mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回60mgとする。 <がん化学療法に伴う高尿酸血症> 通常、成人にはフェブキシスタットとして60mgを1日1回経口投与する。	